

中教研学力調査が始まります。全集中です。

教職研修11月号の巻頭インタビューで、帚木蓬生（ははきぎ・ほうせい）先生（作家、精神科医）が、すぐに答えが出ないとき、じっと耐える力つまりは「ネガティブ・ケイパビリティ」（後ろ向きな能力）が大事だと話されています。不安になりながらも、理解できないままでも考え続けること、そのプロセスに耐える力のことだそうです。

我慢強いという言葉をよく耳にします。我慢をしながら、より良い解答を導き出すために思考を重ねる。時間がかかっても、粘り抜く。現代社会では間違いなく必要な力と言えます。

先生は「対話とは、人と人が交流し、互いが変わっていくこと。先生が、子どもの発言を『そういう考え方もあるのか』と柔軟性をもって受け止めていただきたいと思います。」と仰っておられます。

逃げ出さず、悩み、考え続けること、子どもにも『わからない』と言えることを大切にしていきたいです。